

生涯現役フェア

主催：せたがや生涯現役ネットワーク

共催：世田谷区

コロナ禍で変わったこと、 変わらないこと

2021年2月21日 オンライン開催

関東学院大学社会学部 小山弘美

目次

1. 自己紹介
2. 高齢者の地域参加の状況
3. コロナ禍での世田谷区のまちづくり活動—世田谷まちづくりファンドを事例に
4. コロナ禍で変わったこと、変わらないこと

1. 自己紹介

- 2010.4～2014.3 首都大学東京大学院後期課程
- 2010.4～2014.3 **せたがや自治政策研究所特別研究員**
- 2014.4～2017.3 東洋大学社会学部助教
- 2017.4～2019.3 東洋学園大学人間科学部専任講師
- 2018.9～2019.2 **世田谷市民大学講師**
- 2019.4～現在 関東学院大学社会学部准教授
- 2019.4～現在 **世田谷まちづくりファンド運営委員**
- 2021.1～現在 **せたがや自治政策研究所政策研究員**

著書

➤『自治と協働のコミュニティ論—
世田谷区まちづくり活動の軌跡』
2018.3 晃洋書房

➤小山弘美「地域参加を増進するには—地
域活動における男性の不利と女性の不利
とを考える」
稲葉陽二先生編著『ソーシャル・キャピタル
と人間関係—社会関係資本の光と影』
2021.3刊行予定



2. 高齢者の地域参加の状況

超高齢社会の日本の状況

- 日本の高齢化率は**28.4%**（2019年）（令和2年版高齢社会白書）
- 今後は、2036年で約3人に1人（33.3%）、2065年のピークには約2.6人に1人（38.4%）になると推計されている。
- 世界でも今後高齢化が進むとされており、日本はいわば**先進高齢国**となっている。

平均寿命と健康寿命

- 平均寿命は男性81.41歳、女性87.45歳で今後も伸びていく予測となっている。(令和元年簡易生命表)
- 健康寿命は男性72.14歳、女性74.79歳でこちらも伸びている。
- 長くなった高齡期を生きがいを持って過ごすこと、そして健康寿命をいかにして伸ばすかが課題となる。

ソーシャル・キャピタル論

- ソーシャル・キャピタルとは...人々の中の協調的な行動を促す「信頼」「互酬性の規範」「ネットワーク(絆)」を指す(稲葉2011)。
- ソーシャル・キャピタルは社会関係資本と訳されており、経済的な資本と同様に個人や地域にとって有用なものとされる。

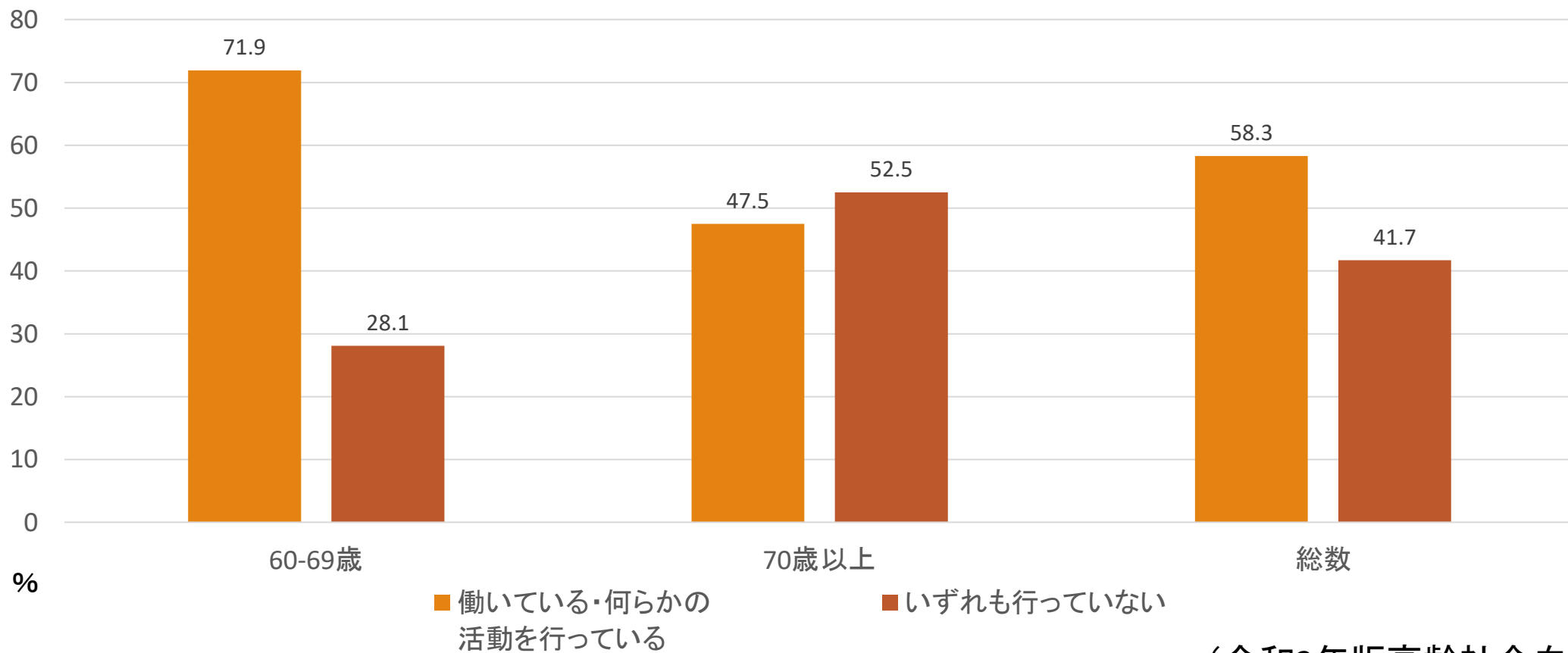
例: ソーシャル・キャピタルが高い地域ほど、犯罪率が低く、健康的で幸福な生活を送るひとびとが多い

ソーシャル・キャピタル論から見た 地域活動と健康との関連

- 地域活動への参加が高いほど、健康である(個人の効果)
 - 地域活動が活発な地域ほど、健康な人が多い(地域の効果)
- この両方が実証されている。
- このことから、国や自治体などでも地域活動を増進し、高齢者の健康維持を図る施策も増えている。

例: 地域保健対策の推進に関する基本指針など

図1 60歳以上の社会活動の状況



(令和2年版高齢社会白書)

図2 高齢者が参加してみたい活動 (複数回答)

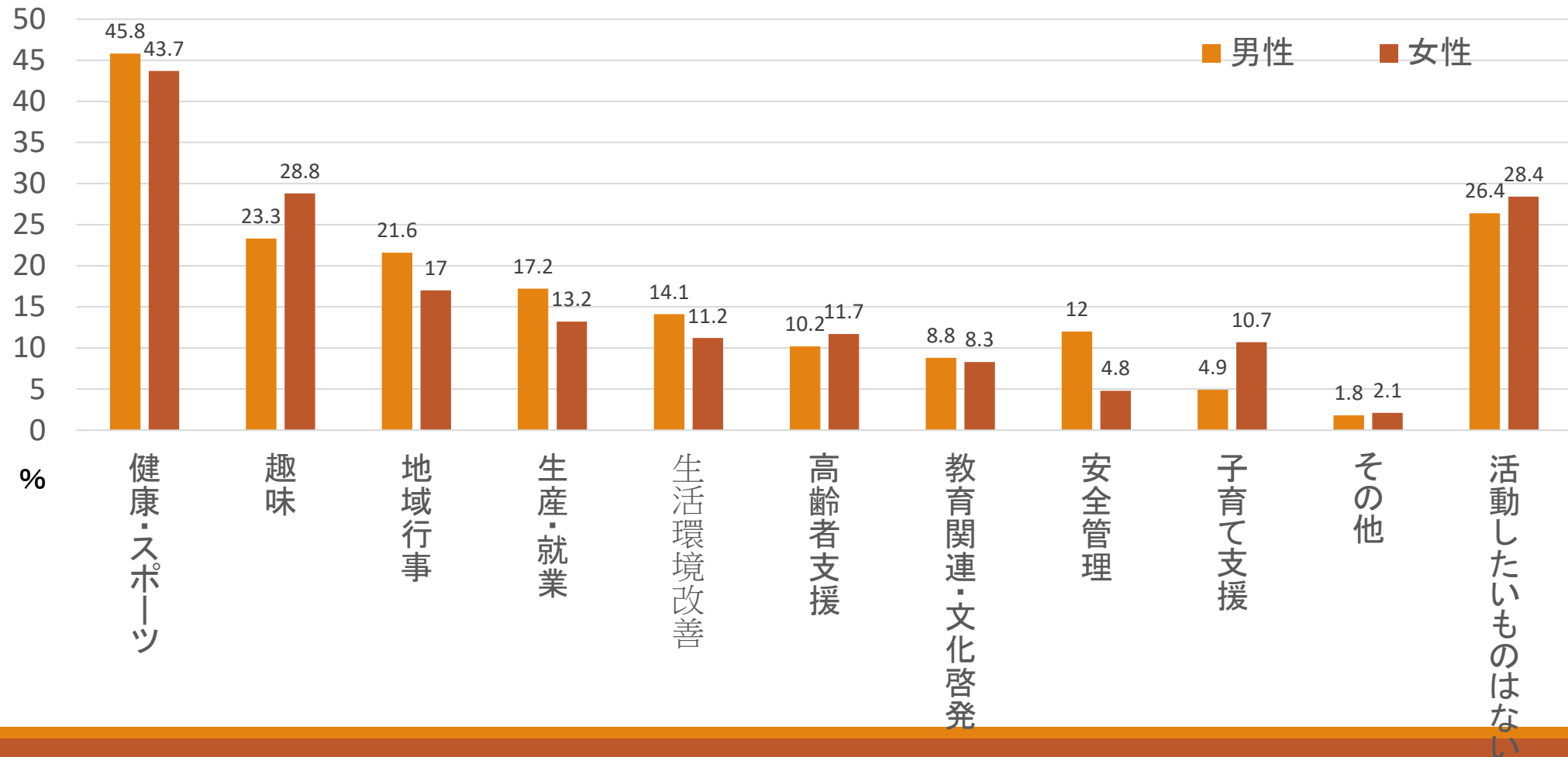


図3 高齢者が参加している活動

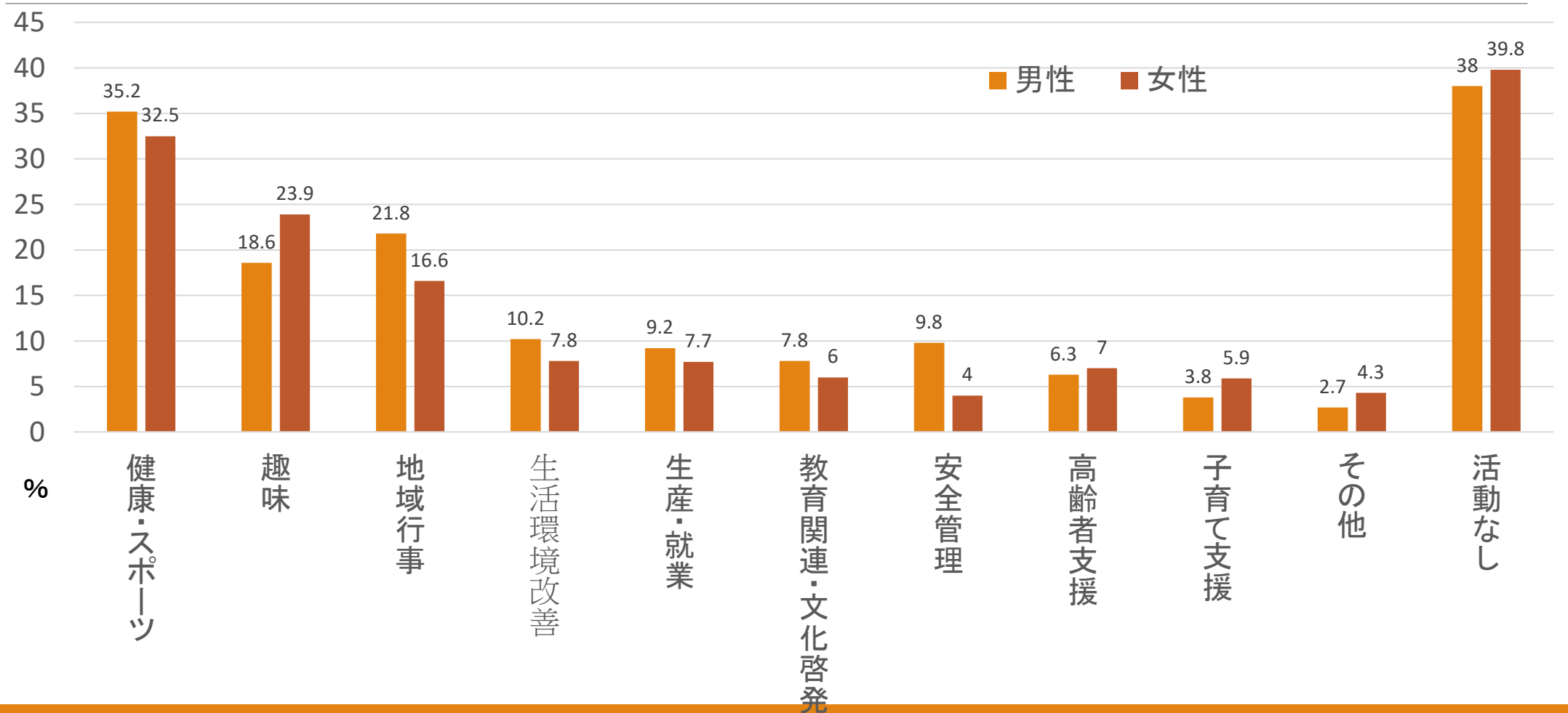


図4 世田谷区民の地域活動の状況 (男性)

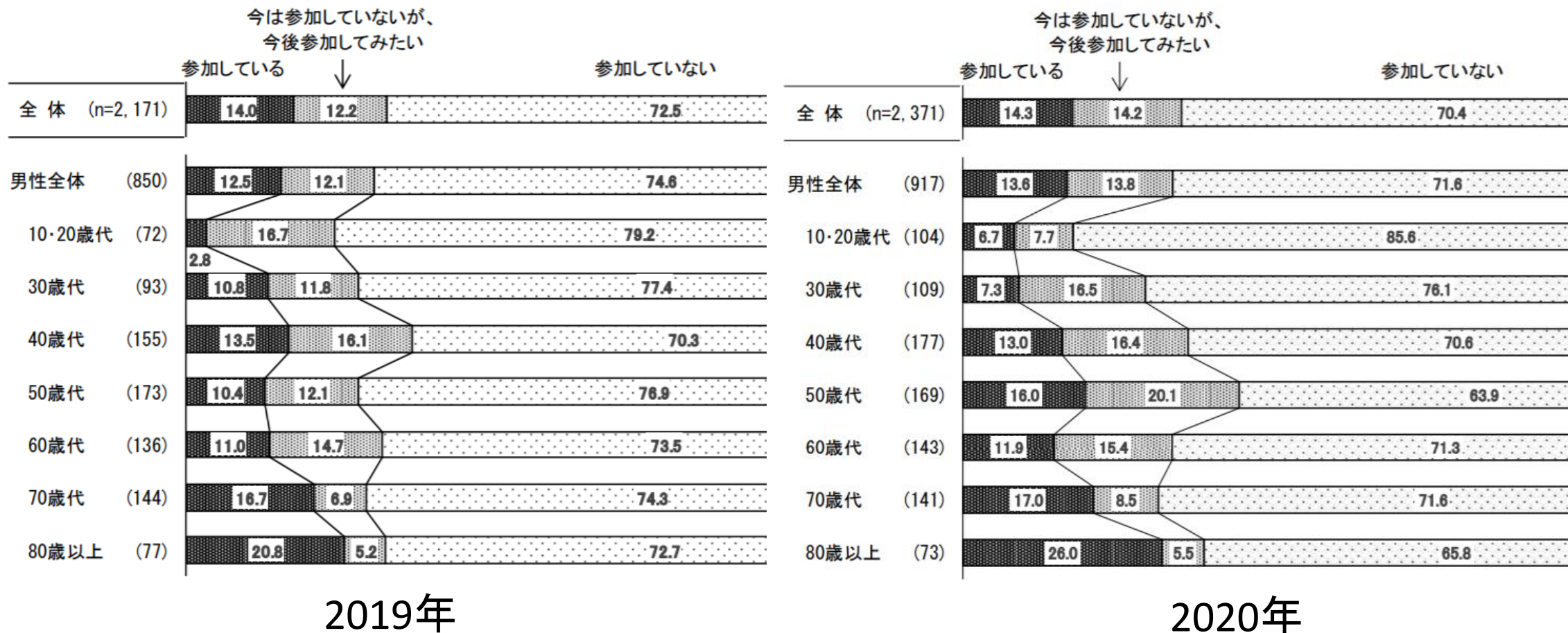
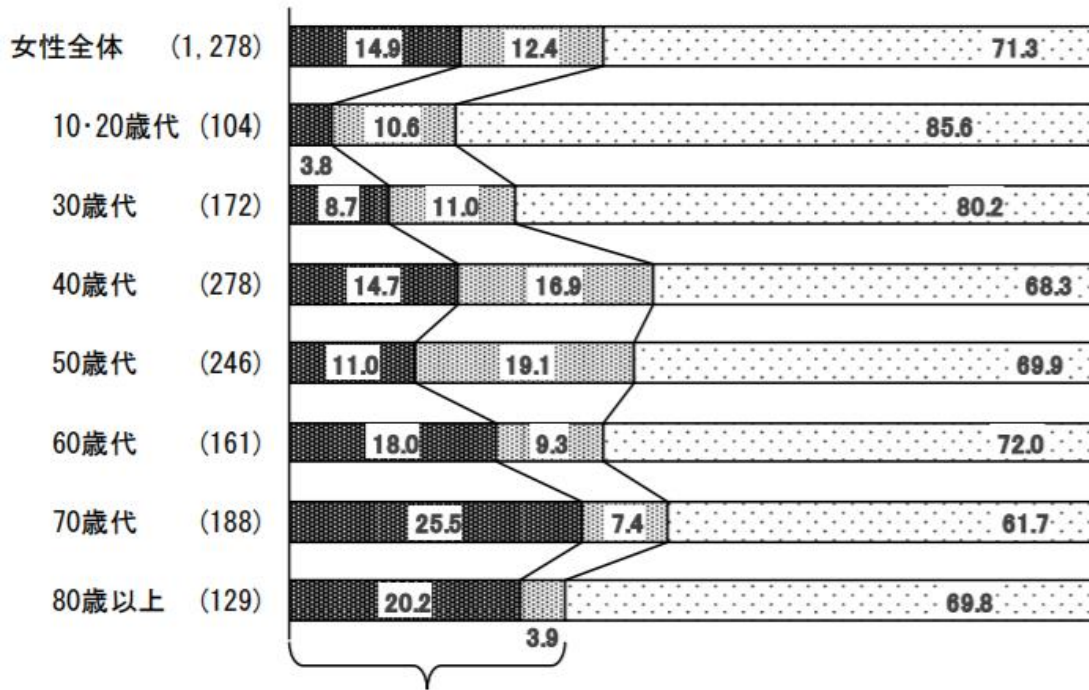
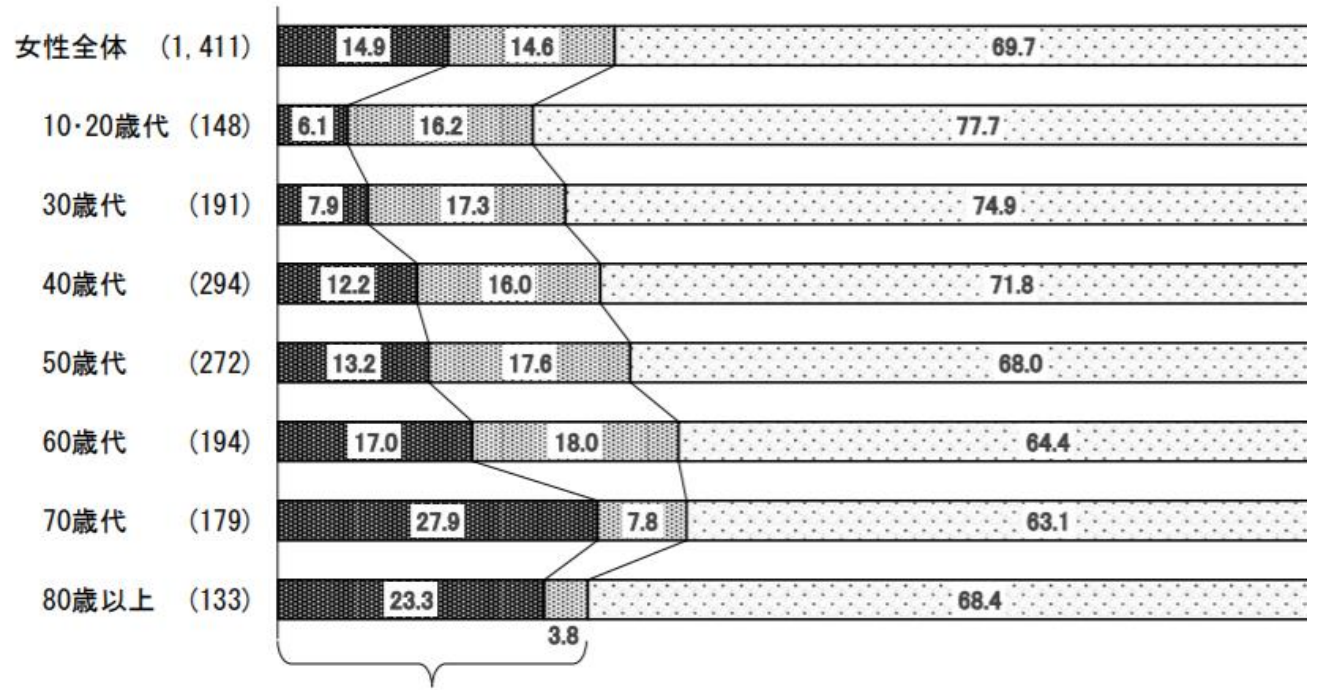


図5 世田谷区民の地域活動の状況 (女性)



《参加している又は参加意向あり》

2019年

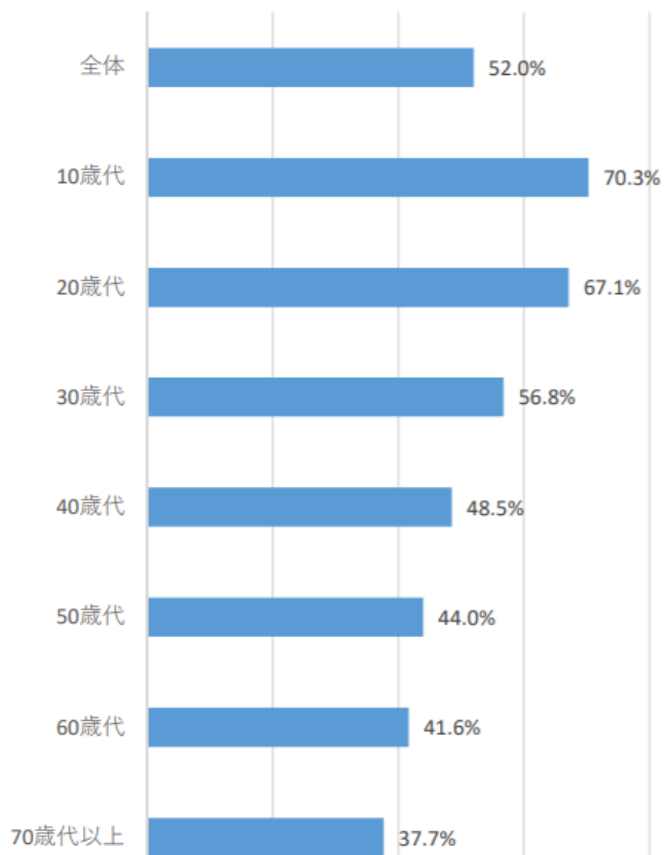


《参加している又は参加意向あり》

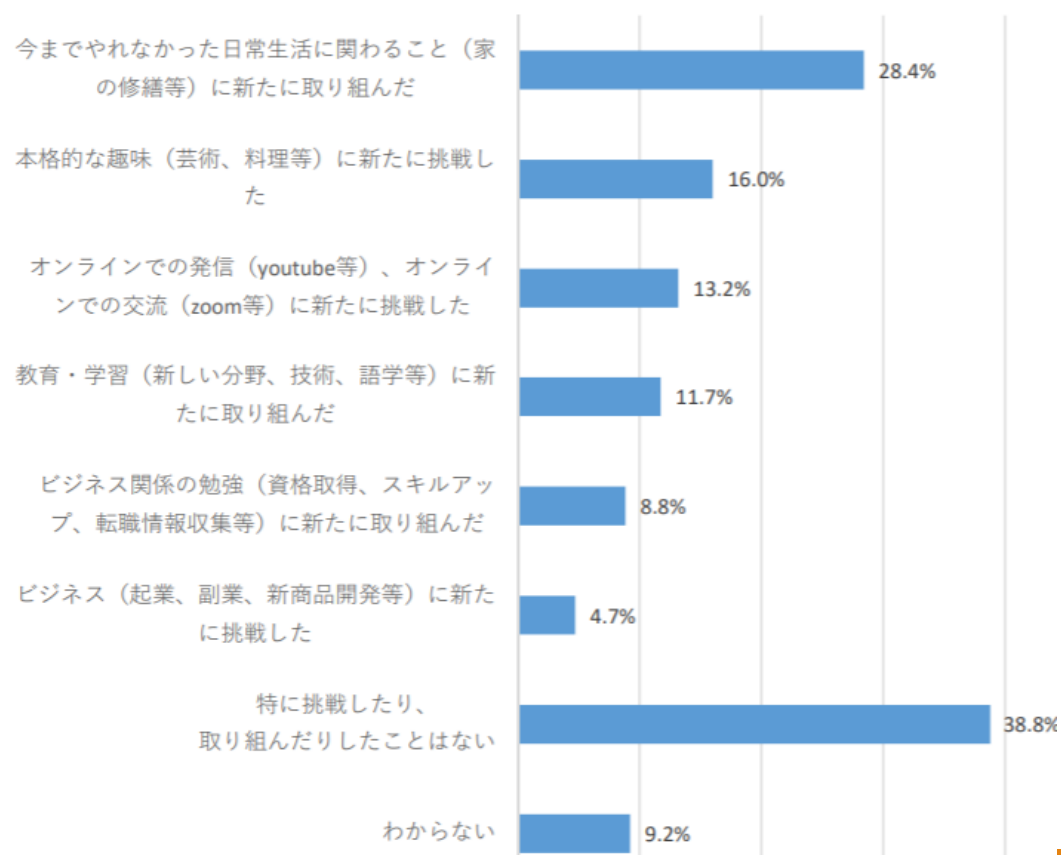
2020年

コロナ禍で新たに挑戦したり、取り組んだこと

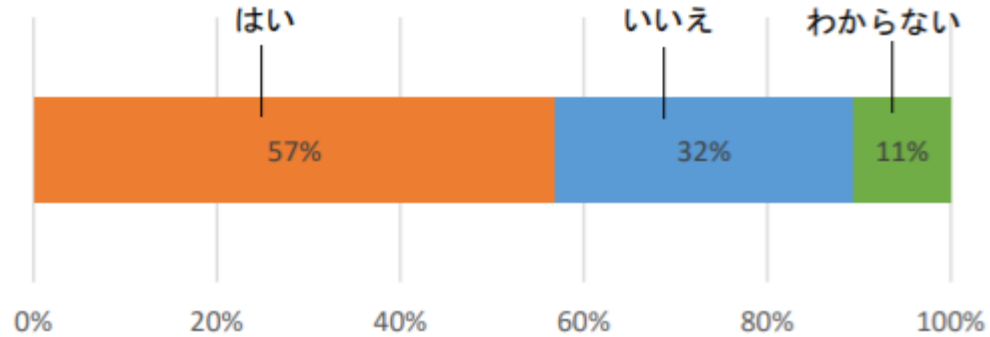
何らかの挑戦・取組をしたと回答した者の割合（年齢別）



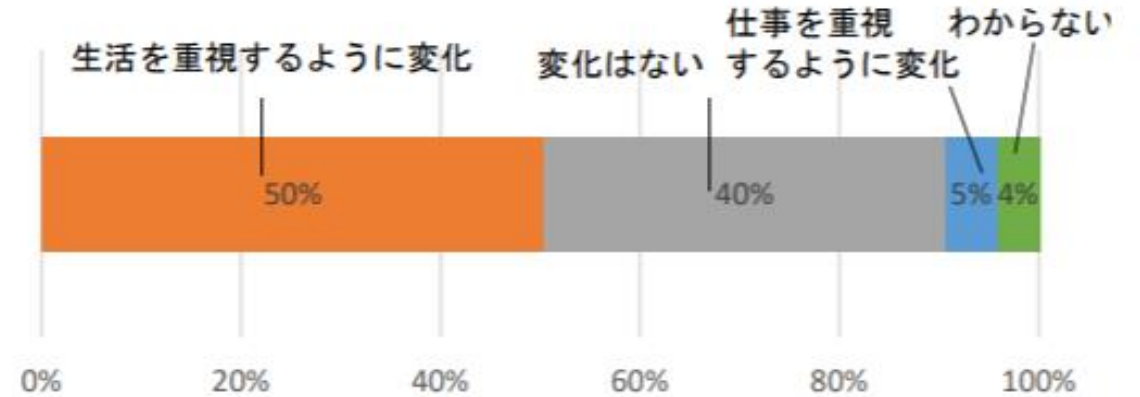
挑戦・取組の項目別回答割合（全年齢計）



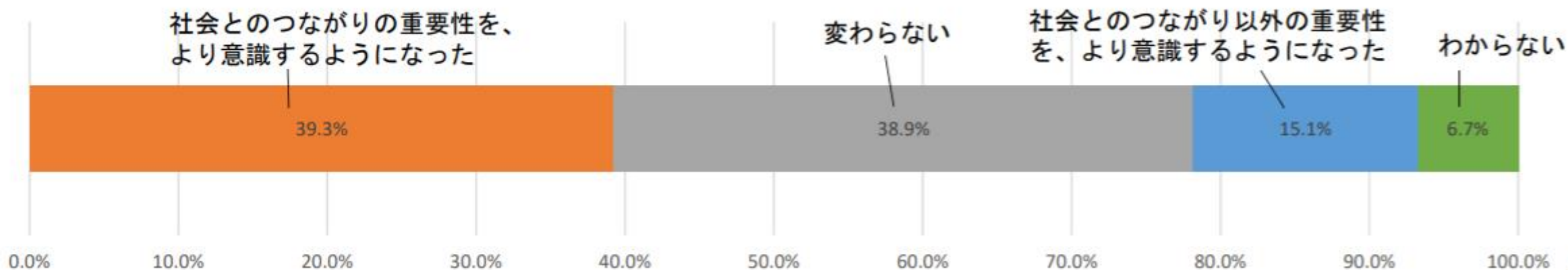
仕事への向き合い方など意識の変化



「仕事と生活どちらを重視するか」意識の変化

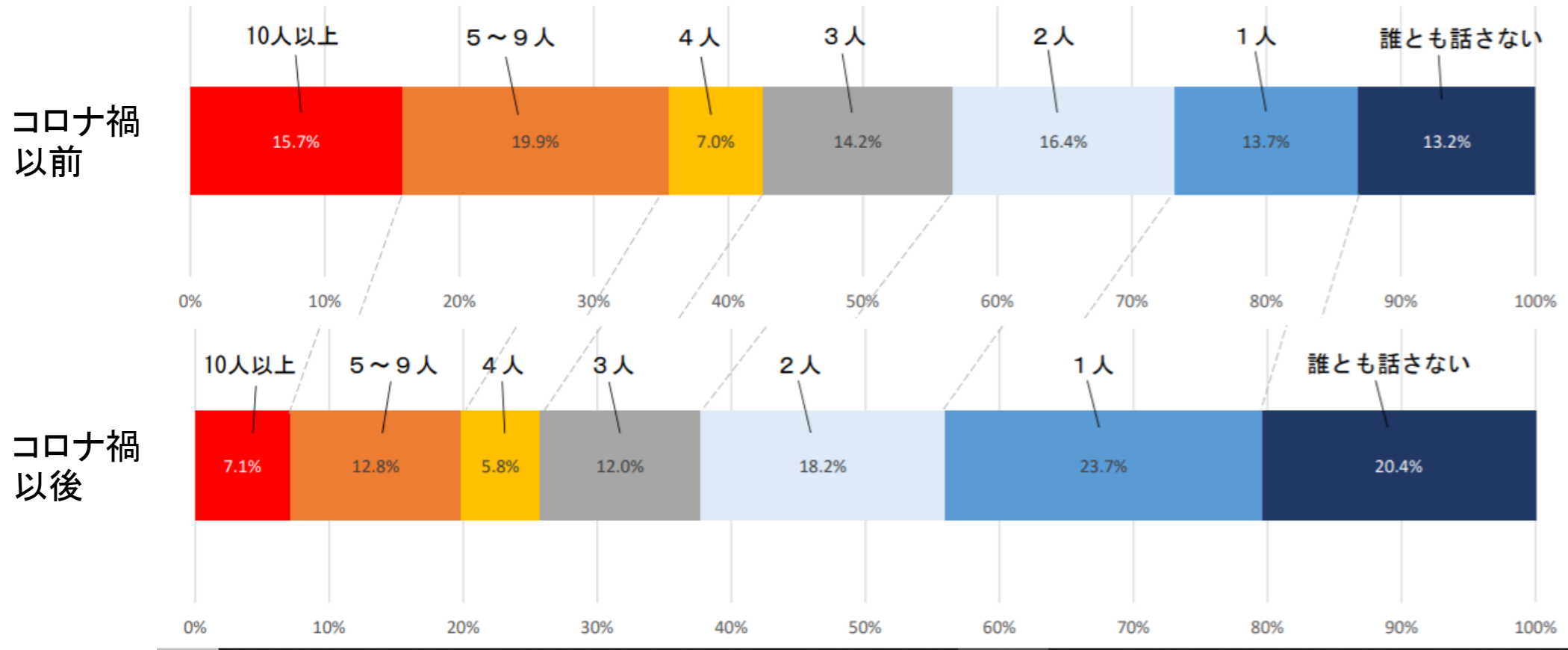


社会とのつながりの重要性に関する意識の変化

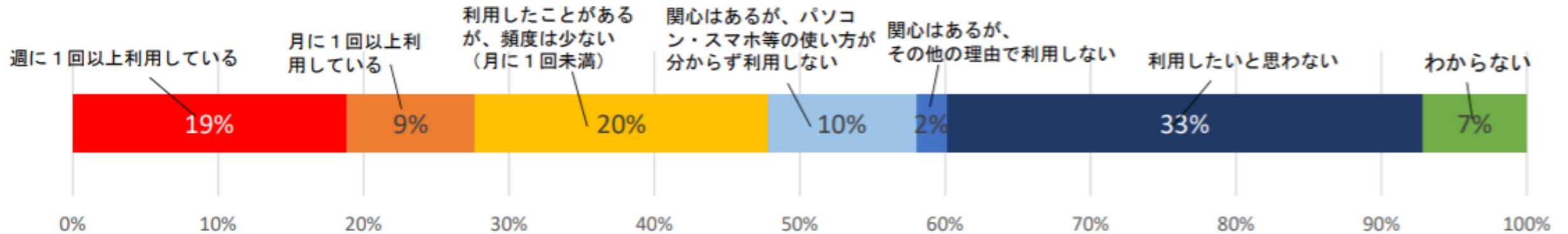


高齢者の「人との交流」

平均して1日に何人と話すか（同居人以外、対面・電話・ビデオ通話含む）



高齢者のビデオ通話利用 ビデオ通話（zoom,skype,Line等）の経験や関心



3. コロナ禍での世田谷区のまちづくり活動 —世田谷まちづくりファンドを事例に

公益信託世田谷まちづくりファンド

- 1992年に住民、行政、企業から寄付を募って設立されたまちづくり公益信託
- 設立の目的: 住民、行政、または企業のいずれにも属さない独立した立場から、地域の発想に根ざした区民主体のまちづくり活動を支援すること
- 助成先は学識経験者やファンド卒業生などの市民活動の担い手が運営委員となって決定
- 草の根の市民の自由な発想に小さな単位から助成してきた
→ 世田谷の多様なまちづくりの根幹をつくってきたとも位置付けられる

世田谷方式のファンド運営の特徴

- 公開審査方式
- 助成期間中にまちづくり交流会や最終報告会があるなど、助成を受けた団体同士のネットワーク形成が目指されている。
- 世田谷トラストまちづくりが上記のような仕組みを支援している。
- 運営委員によってその時々で必要な助成部門が検討されてきた。

例：2012年～2015年「災害対策・復興まちづくり部門」

2020年度 コロナ禍でのまちづくりファンド関連事業

➤ 5月活動発表会の中止

➤ 6月公開審査会は秋に延期

➤ 9月zoomにて審査会を開催（公開はなし）

4月の応募団体23件（昨年28件）、9月の応募団体は18件

➤ 11月世田谷まちづくり交流会（トラストまちづくり主催・助成を受けた団体は基本的に出席）

➤ まちづくりファンド運営委員企画を2回開催

オンラインシンポジウム「世田谷のまち暮らしとその支え方」

まちづくりファンド新部門の検討

- ファンドの財産が減少し、ファンドの終わりが見えてきている中で、どのようにファンドを閉じていくのか、新部門の検討を含めて運営委員で話し合いがもたれていた。
 - そんな折にコロナ禍でまちづくり活動に多大な影響が出ている状況に。仕事でいなかった人たちがまちにいるなど、新しい状況も。
- この状況のなかでどのような助成が必要か、まちづくり活動の現状はどうなっているのか、オンラインイベントを行って情報を集めることになった。

オンラインシンポジウム 「世田谷のまち暮らしとその支えかた」

➤ 第一夜 虫の目・まち暮らし編 11/13(金)19:00-20:30

実際に様々な工夫を行いながらまちの中で活動を行っている団体の話を聞き、現在やこれからの活動について考える

➤ 第二夜 鳥の目・支えかた編 11/30(月)19:00-20:30

活動を支えている立場からの話を聞き、団体への支援のあり方を考える

コロナ禍での新しい可能性

- (オンラインで) 障害者には参加の可能性がひろがった。
- 新しい人が見えてきた。
- 失敗ありきでスモールスタート
- まちとつながるいろんな機会、入り口を増やす
- オンライン入り口にして、リアルにつなげる
- スマホの使い方の講座も行った
- (新しいことを始める) ベースとなるコミュニティがあった

コロナによる活動への影響

➤ 前と同じようにやらなくてはいけないという感覚を持たないようにしよう

➤ できなくても仕方ない

音楽できない→オンライン→ずれるのを面白いと思えないと難しい。

➤ オンラインで会っても、その人が困っているのか、五感で感じていた部分が難しい。見た目ではわからないなかで、家の中でそのような困りごとが起きている。

➤ (障害を持っている人など)最も孤立に弱い人たち

➤ 新しく困っている人たち⇔余裕ができた人たち

求められる、新しい助成は？

- 人件費に対しての支援・助成がない。
- 活動ができなかったとか、赤字になっている。心が折れる団体があるのではないか。
- リモートワークなどで、まちにいる時間が増えた人たちをどのようにまちづくりに興味を持ってもらえるか。

☆2021年度の新部門の立ち上げ、既存部門もリニューアル

2020年度まちづくり交流会 「今みんなでお話す 変化したこと・しないこと」

- 2020年11月21日(土) 13:30—16:00
- 開催場所: オンライン(ZOOM)
- 参加者数: 28名
- 世田谷まちづくり交流会は、公益信託世田谷まちづくりファンドの助成グループのほか、まちづくり活動を進めている人や関心のある人たちの「出会い」と「学び」の場として開催している。(トラまちHPより)

プログラム

➤ 1. 参加団体1分PR

➤ 2. グループセッション1 自己紹介

個人的に①コロナで変化したこと、②変化しなかったこと

➤ 3. グループセッション2 活動に関する語り合い

①コロナ禍での活動状況(工夫など)、②活動の今後について

4. 全体共有

工夫したこと

➤ コミュニケーションツールとして、LINEなどSNSの活用、ZOOMのオンラインミーティング、手紙のやりとりという意見も

⇔ 一方で、顔を見ることの情報量の多さは、安心＝共感しやすい、顔を見ないでの話し合いは難しいなど、対面にこだわるといった意見も

➤ **自分たちなりの対策、活動できる基準づくり**

⇔ リスクを受け入れる難しさ。人によってコロナへの考えも異なる。関わる人が納得するための話し合いが重要

考える機会になったこと

- 時間に追われなくなった
- オンラインでできることとできないこと
- 接触が少ないからこそ、濃いコミュニケーションをとりたい
- 当然できていることを再認識
- 場を作っている自分たちの重要さの認識
- 気持ちを吐き出す機会は？

課題

- オンラインに慣れていない人をどうするか
- オンラインで自分たちの良さをどのように伝えるか
- 拠点がない、ホール活動の見直し(場所の問題)
- **取り組みを再考する必要**
- 今までと同じことを続けることは難しい。方向転換も視野。

前向きな意見

- 暗くなりすぎない
- ブレずにやっていきたい
- 来れない会員の気持ちも大事に
- この時期だからこそ広がりを考える
- 今できることをやりたい
- 実感と直感を大切に

4. コロナ禍で変わったこと、変わらないこと

コロナ禍で変わったこと

➤ 集まることができない

→LINEなどSNSを活用するようになった。

→ZOOMなどオンラインミーティングを行うようになった。

→新しい取り組み（例：活動のオンライン配信ができるように、新しい機材の購入の検討・新しい人材とのコンタクト）

→いつもとは違うということを楽しむ

➤ 新しい課題・支援の対象が浮かび上がった

→活動内容自体を変更した

→自分たちなりの対策・基準

コロナ禍で変わらないこと

➤ 対峙している課題の状況（深刻になっている場合も）

➤ メンバーの思い、やりたいこと

→ できることを続けていく。新しい可能性も。

➤ これまでつくり上げてきたネットワーク・コミュニティ・つながり（ソーシャル・キャピタル）

→ つながり方は変わるかもしれないが、そもそもつながりがあるところから新しい関係が生まれる

コロナ禍で確認したいこと

- 団体や活動にとって、あとに回してもいいこと、ゆずれないこと
- 新しいことにチャレンジするタイミングでもある
- やっぱり無理なこと、難しいこと
 - いつもはバザーで資金を得ているが、バザーができないなど→何か支援を受けることはできるか
 - 一部休むことも。でも、それによって失うものは？
- 人と人とのつながりは、財産であるということ

ご視聴ありがとうございました。
つながりを切らせずに、
むしろパワーアップさせて、
一緒にこの難局を乗り越えましょう！

参考資料

- 厚生労働省「令和2年版高齢社会白書」https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/s1_1_1.html
- 厚生労働省「令和元年簡易生命表」
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/life/life19/index.html>
- 内閣府「平成25年度高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」
<https://www8.cao.go.jp/kourei/ishiki/h25/sougou/zentai/index.html>
- 世田谷区民意識調査2019・2020
<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/006/003/index.html>
- 内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」
(令和2年6月) <https://www5.cao.go.jp/keizai2/manzoku/pdf/shiryo2.pdf>
- 世田谷トラストまちづくり「まちづくり交流会」
<https://www.setagayatm.or.jp/trust/support/network/index.html>
- 稲葉陽二2011『ソーシャル・キャピタル入門—孤立から絆へ』中央公論新社